

対象年齢に配慮した文章の複雑さに関する研究

A study on complexity of a sentence considered in the target age

学籍番号：201321648

氏名：橋本 舞子

Maiko HASHIMOTO

文章を作成する際、書き手は読み手に分かりやすく伝わるように配慮しながら文章を作成する。書き手の配慮する点の一つに、読み手の年齢がある。読み手の年齢は、読解力や先行知識にかかわっているからだ。書き手の、年齢への配慮が文章にどのような特徴として現れるか明らかにすることで、書き手が文章を作成する際や、文章を評価する際の手助けになると考える。文章の特徴の一つに、文構造がある。文構造は、数量的に分析することが可能で、文章の特徴を数量的、客観的に示すことが出来る。そこで、本研究では、対象年齢が異なる文章の、文構造の特徴を分析するとともに、書き手がどのような文構造の特徴に着目しているのかを実験的に調査する。

分析の対象として、小学校低学年から一般向けの百科事典5種類から17項目選択した。文構造の特徴を表す指標として、1文あたりの文節数、主述間の距離等、全11個を設定した。百科事典の文章を解析ソフトJUMAN とKNP を用いて形態素解析、構文解析し、指標を抽出し、百科事典の指標に差があるかを検証するため、t 検定を行った。文構造は対象年齢が高くなるにつれ複雑になるという仮説を立てたが、分析の結果、書き手が対象年齢と文構造の複雑さの対応は子供向けの文章で一部その傾向が見られるが、段階的な変化は見られなかった。その原因として、書き手が文構造の複雑さを意識していないことが考えられる。

実験的な調査は、書き手が文構造の変化についてどのように感じるかを質問紙調査により行う。筑波大生22人を対象に、特定の指標の値のみ変化させた対の文章A,Bを読ませ、どちらがより子供向けか評価してもらおう。そして、A,Bを選択した人数に有意な差があるか検定する。文構造が単純な方を選択した人数が多いと仮説を立てたが、仮説通りの結果が得られた指標は1個だった。

今後は、文構造の特徴を単独で分析する方法や、複数の文構造を組み合わせ、文章の複雑さを判断する方法を検討したい。

研究指導教員：真栄城 哲也

副研究指導教員：上保 秀夫